

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
69	川崎市立西野川小学校	神宮 祥恵

学校教育目標	今年度の重点目標
○明るく元気な子(元気) ○仲良く助け合う子(思いやり) ○よく考えて工夫する子(やる気) ○最後までやりぬく子(根気)	豊かな心でふれ合う学校 学びを楽しむ学校 に 健康で安心な学校
	よりよいものを求めて、一步踏み出す！ 子ども・保護者・地域・教職員、それぞれが学校教育目標 掲げる子どもの姿の具現化を目指し動き出す

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	豊かな心でふれ合う学校 ・児童理解・児童指導の充実を図る	・教職員が児童一人一人に寄り添った指導・助言を心がけてきたことで、安心して楽しく登校できる児童が増えてきている。一方で、20名くらいの児童が登校に対して前向きではないこともアンケート結果よりわかった。 ・正門で児童を迎えることで気づいたことを関係する職員と朝のうちに共有し、気持ちが不安定な児童には声かけをしたり様子を見守ったりするようにした。 ・人と関わるのが苦手、学習の遅れ、家庭の協力が得られないなどの理由から登校を渋る児童もいる。	・今後も日常の行動観察・対話・日記・アンケートなどから、児童の悩みや困り感を積極的に感知し、早めの対応を心がける。 ・年7回取り組んでいる共生共育やSOSの出し方教育を通して、人との関わり方を具体的に学ぶ機会を大切にする。 ・児童同士、児童と地域の方との好ましい関わり方に対して積極的に価値づけをする。 ・児童に関する情報を共有し、迅速にチームで対応する。
2	・児童間の交流を広げる	・縦割り活動・委員会活動・クラブ活動等異学年での交流を積み重ねてきたことで、児童同士の顔が見えるようになり互いに手を振り合ったり挨拶を交わしたりする姿が見られた。 ・高学年の児童が下学年の児童に対して優しく温かい言葉かけができていて、安心して学校生活を送っている児童が多い。	・校内での挨拶は、盛んに行われるようになってきたが、地域の中では十分とはいえない。児童が地域に出かけたり、学校に地域の方を招いたりしながら顔の見える関係を作り地域の中でも児童の声が響くようになることを願っている。 ・今の温かい雰囲気が次年度以降に引き継がれるよう丁寧な引継ぎを行う。
3	学びを楽しむ学校 ・主体的に学ぶ子の育成を目指す	・指導者が単元のゴールをもって授業をすることで、児童も見通しをもって学習に取り組む姿が見られるようになった。 ・年7回の授業研究会の後に、教員自らの学びをシートに書き込み全員で見合うようにした。翌日から自分の学級で取り組みたいことが明確になった。 ・GIGA端末の活用は学年学級によって差がある。	・専科の授業を増やし、担任の教材研究の時間を確保するようにした。学力向上・授業改善を目指して、他学級の授業観察を勧めた。校内での学びの機会が増えたがより全体に広め学校の指導力を高めていく。 ・GSLによる研修やICT支援員による入り込み授業により活用は進みつつある。さらに、効果的な扱いを互いに紹介し合いたい。
4	・社会に開かれた教育課程の実現を目指す	・地域人材・地域教材を活用し、児童の学習意欲を高めるようにした。1年生が地域の方や留学生との昔の遊び体験、2年生が地域の公園清掃と農家の方への野菜の育て方のコツインタビュー、3年生が川名梨園の見学、6年生が地域の方に西野川の町の魅力をインタビューをした。6年生は、地域に住んでいる人を喜ばせたいとの思いから、寿楽園を訪問し歌やダンスを披露し喜ばれた。	・今後も、地域人材・地域教材の開発を行う。 ・地域コーディネーターの方の力が大きい。来年度以降も適した時期に適した学習が行えるよう地域コーディネーターとの連絡を密にする。 ・学校司書が配置され1年目である。図書室に司書がいる環境を待ち望んでいただけに大変ありがたいと思っている。さらに、担任と学校司書が連携して学習を組み立てていくことに取り組むたい。

5	健康で安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全への児童の意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 4年ぶりに学校保健委員会を開催することができた。学校歯科医による歯磨き指導や学校薬剤師による感染症対策の話など児童も保護者も改めて健康について考えるよい機会となった。 毎月のシェイクアウト訓練、不審者対応訓練、避難訓練等を計画的に行うことで災害時の行動の仕方が身につくようになった。また、放送をよく聞く習慣が身につくようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校状況を見ると、始業間際に正門を通過する児童が一定数いる。就寝時刻が遅く朝起きられず朝食を抜いて登校したり、気持ちがいらいらしたまま登校したりしている。生活リズムを整えること、気持ちよく家を送り出していくことについては、ご家庭の協力を仰いでいきたい。 自分自身も周囲も楽しく安全に生活するために、どんなことができるのかを考えて生活することを心がけるよう呼びかけていく。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 児童の安全確保に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館改修のため限られた状況の中で児童が体を動かせる場を積極的に作るすることができた。児童会活動で高学年の児童の意見を吸い上げ実現に向けて教職員も一緒に考えた結果だと捉えている。 登下校時の怪我が目立った。原因は、走る・つまずき・追いかけてこ・手が出ないなどである。 	<ul style="list-style-type: none"> キラキラタイムが定着してきた。次年度は改修された体育館も使いながらよりダイナミックに展開していくことを期待する。 坂が多い地域である。児童に対して歩き方の指導をすると共に、保護者や教職員で学区を歩き、危険箇所を洗い出す活動を行いたい。
7	共に歩み、つながり合う学校	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共通理解を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の委員の方々が、学校教育目標の具現化に向けてそれぞれの立場で動き出す姿が見られた。民生委員による正門でのあいさつ運動、自治会主催の交差点での見守りとあいさつ運動・PTAアクションによる中休みの読み聞かせ・PTAによる見守り・授業への協力・公園清掃の継続・こども文化センターの子ども会議などである。 以上のような取り組みをさらに保護者や地域住民に知ってもらい協力していただける方の輪を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は「児童の主体性を伸ばす」というところについて学校運営協議会の委員の方には動いていただいた。児童の声を実現する取り組みを増やしていくことで、自分で考え前に進んで行ける児童を育てていきたい。 今後も児童・保護者・地域・学校のつながりを大切にしたい取り組みを継続していく。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・保護者・地域・教職員が一步踏み出すための情報共有を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なお便りや学校HPを通して学校の様子を発信することの他に、授業公開を年間5回実施し学校教育への理解を得られるようにした。 9月の懇談会が、保護者の意見交換の場になるよう設定した。賛否両論あるが数年は継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方同士も顔がわかり言葉を交わす仲になることで、児童同士も安定した関わりをもてるようになると考えている。保護者の方が学校に足を運んでいただく機会を大切にし、保護者の方が話したくなる話題を考えて懇談会を行っていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動や毎朝校門で見守る先生方を見て、安心して登校することができている。 授業公開が定期的に多く行われており、学校生活の様子を見ることができた。 地域の人材や学習材を活用した授業が設定されており、家で授業内容を楽しそうに話している。 GIGA端末を使った授業が多くなり、子どもが興味をもちやすくなっていると思う。一方で文字を書く機会が減っているのではと心配になる。 学校と保護者が対話することに慣れて、子どもの環境への相互理解が深まっていければよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は複数の教員不足の中での学校運営となった。非常勤講師・サポーター・教育ボランティアを複数配置していただき、児童にしわ寄せがいかないよう教職員一丸となって教育活動にあたった。 体育館改修の年となり、体育館が使えないことに加え、校庭も3分の2ほどしか使えなくなってしまった。そのような中で、児童も教職員も今の状況でできることを考え知恵を出し合い運動量が増えるよう取り組んできた。その一つ一つが児童を楽しませ、たくさんの笑顔を作ってくれたことに感謝したい。 今年は、地域人材や地域教材を活用した学習がどの学年でも展開できた。さらに発展充実させていきたい。 学校運営協議会の委員の皆さんが児童の主体性を伸ばすために様々な取り組みを行ってくださったことで、多くの目で児童を見守り、成長を共に喜び合うことができたことをうれしく思っている。 児童同士の関係がより豊かになるような取り組みを充実させたい。低学年の内から、友達のために学級のために楽しい活動を考え実現していく機会を多くもちたいと考えている。